



埼玉縣立上尾高等学校

令和2年度 第1号 令和2年5月1日(金) 発行

発行責任者 校長 林 昭雄

今年度は月に1回程度、この「学校だより」を発行していく予定です。表面は「皆さんに伝えたいこと」を中心にし、裏面は「進路」に関する記事を掲載したいと考えていますので、生徒の皆さんはもちろんですが、保護者の皆様にもご一読いただきたいと存じます。

5月31日(日)までの臨時休校延長が決まり、生徒の皆さんは自宅での生活を余儀なくされています。新型コロナウイルスによる影響は世界各国から報告されています。世界の国々では「ロックダウン」という強い強制力を持った外出規制が行われていますが、日本は、外出自粛要請という「緊急事態宣言」を発出しました。海外では外出規制に違反した場合は罰金で、日本とは大きく違います。法的な整備の問題もありますが、物事のとらえ方に違いがあるような気がします。日本文化も変わりつつあると言われますが、罰則規定がなくても自分の行動を律することができる日本人ならではの発想ではないでしょうか。

私たちの「モラル」が問われています。「罰則があるからやらない」ではなく、「やってはいけないことだからやらない」のです。上高生なら、わかりますよね。入学式や登校日に配布した「行動指針」にも書いてあることを遵守してくれることを願います。

今は「学校じゃない」みたい

生徒の声もしない、生徒の笑顔もない。広いグラウンドや体育館には誰もいない。ここはど

こなのだらうと思ってしまうほど静まり返り、高崎線の音が校長室まで聞こえてきます。

登校日がありました。クラス発表の掲示を見る生徒の姿に「大声で話さない」「掲示を見たらすぐに教室に行きなさい」という指示が切なく聞こえましたが、早く元気な上高が戻ってほしいと願うのは、校長より先生方の方がはるかに強い。登校日の先生方の笑顔は忘れられない。

学習支援は、進路は、どうしたら不安をやわらげられるか、授業が始まったら3密を作らないように環境を整えよう、消毒は・・・、いくら考えてもきりがありません。グーグルクラスルームの体制が整いつつあり、授業動画の配信も始まりました。これからは双方向の通信ができるので少しほっとしています。

この時をどう考えるか

何をしたらいいのだろう、つまらない・・・、と考える人と「1か月学校に行かないのだったら、〇〇をやってみよう」と考える人が当然います。1か月後、半年後、1年後の差は歴然。目的意識が大切です。例えばエジソンのように「実験に1万回失敗した時」に、「上手くいかない方法を1万通り発見した」と考える人もいれば、「1万回も失敗したから成功する方法は存在しない」と考える人もいるわけです。人の気持ち、考え方って大事ですよ。

あなたは、この1か月、何にトライしますか？
「ポジティブなマインド」でいますか？